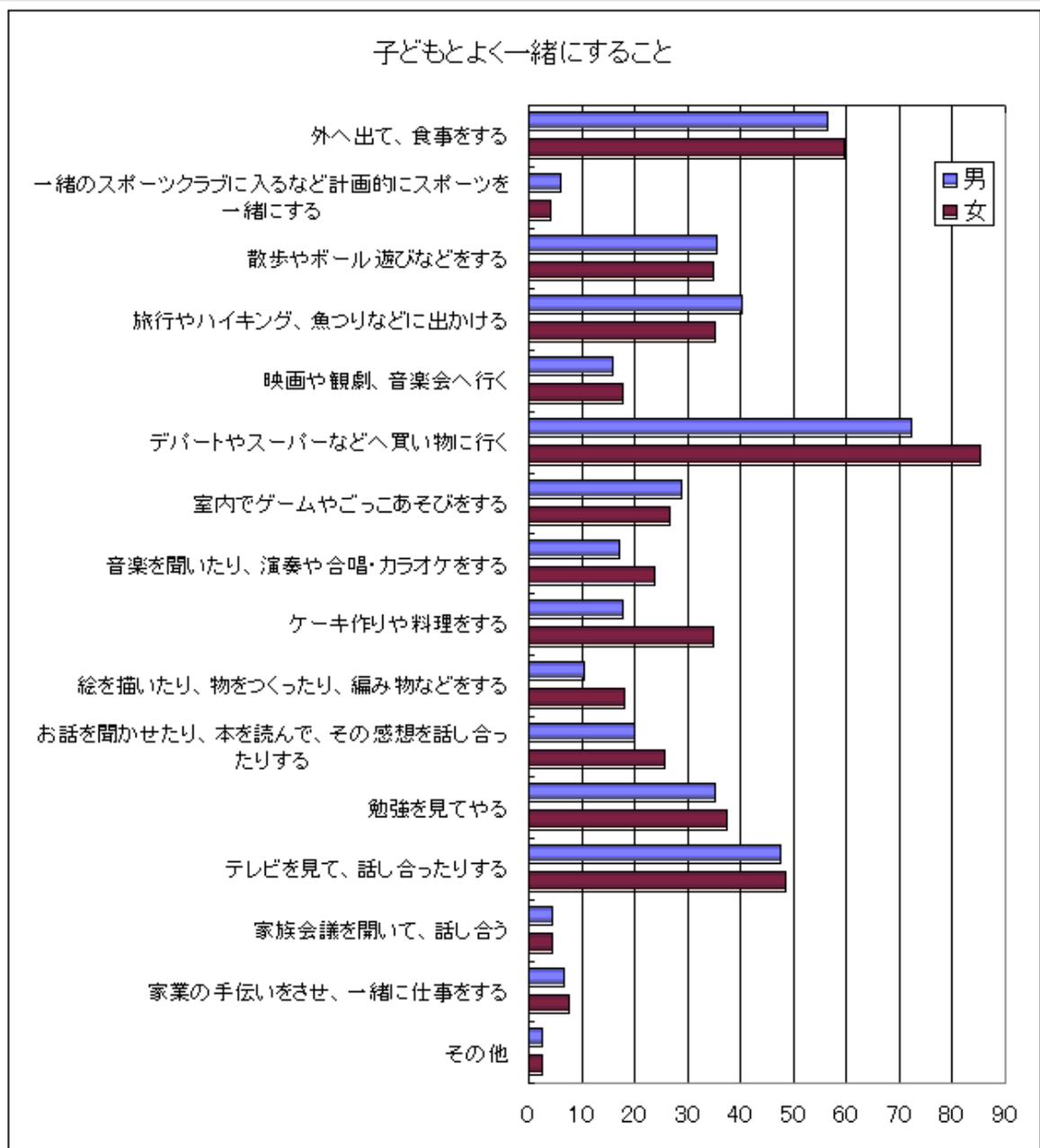


(3) 親子のふれあい

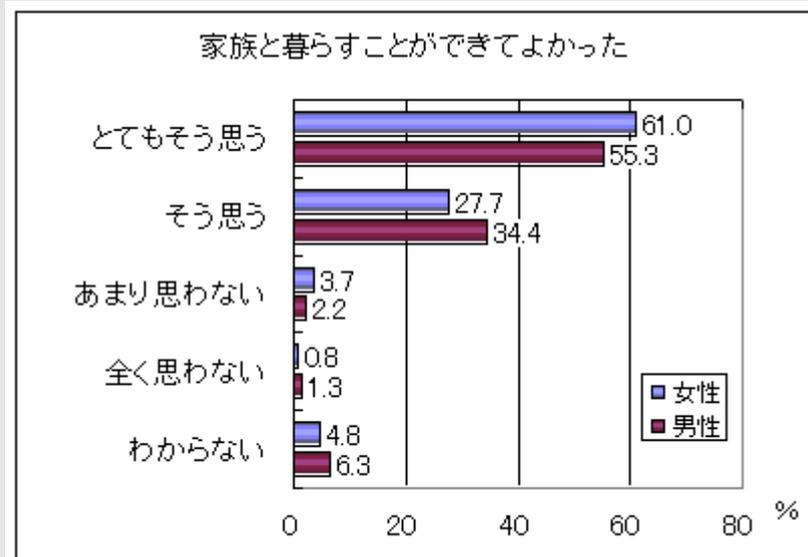
家庭は社会生活の基本的な場ですが、近年、家族のきずなが希薄になっているとか、家庭の教育力が低下しているなどと言われています。

子育てに関する意識を形成していくためには、家族が協力し合い、親子のふれあいを強め、安らぎのある家庭づくりが以前にも増して重要になってきており、家庭が子どものしつけや教育の場として、その機能を高めるため、積極的な取り組みが必要です。



※厚生労働省雇用均等・児童家庭局：平成13年度「児童環境調査」

また、北海道が行った「少子化に関する道民意識・ニーズ」調査（平成15年度）では、ほぼ9割の子どもが今の家族と暮らすことができたと肯定的に感じています。その割合は、家族との会話が多いと思うほど高く、家族同士の豊富な会話が子どもの幸福な家族観を培う基礎的な条件となっているとされています。



資料：北海道「少子化に関する道民意識・ニーズ」調査（平成15年度）

(4) 子どもの生活の状況

都市化の進行により、地域の中に、子どもたちが安心して遊べる空き地や路地などの空間が減少する一方で、塾や習い事へ通う機会が増え、子ども同士の遊びやふれあいの時間が減少することと、遊びなどを通じて培われる社会性や思いやりを身につける機会も減少し、いじめや登校拒否などの要因となるといわれています。

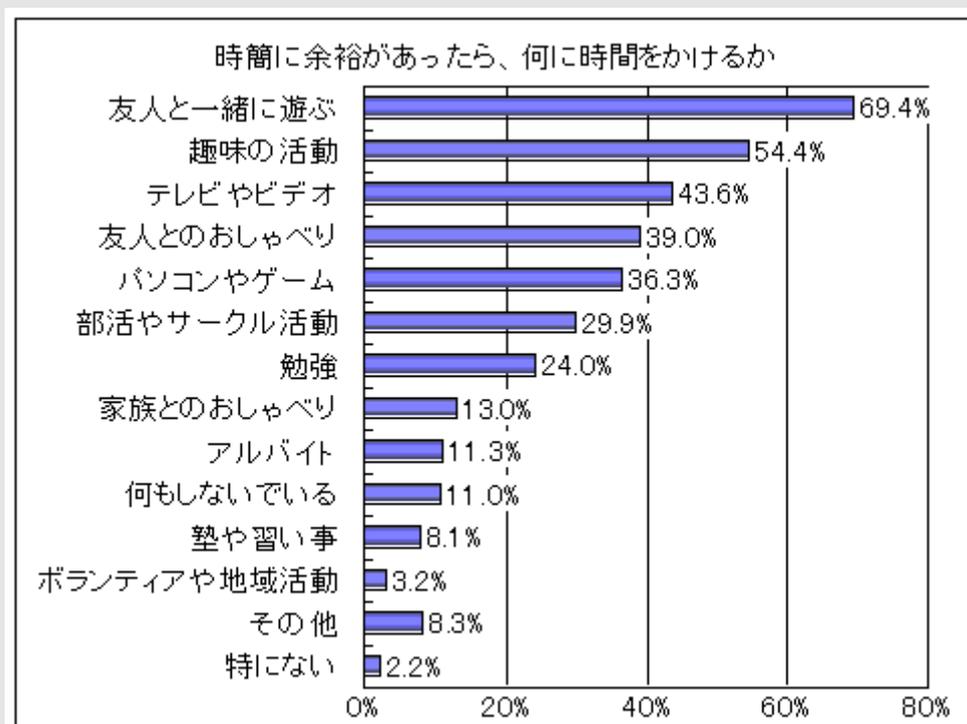


登別市が行った「小学校児童用ニーズ調査」における平日の放課後の過ごし方については、放課後直後の14時から16時の時間帯では「学校にいる」などで友達と接していると思われる児童が7割以上となっています。

区分	14～16時	16～18時	18～20時	20時以降
学校にいる	42.2%	0.6%	0.0%	0.0%
放課後児童クラブにいる	1.9%	0.8%	0.0%	0.3%
保護者等の大人と過ごす	16.7%	52.5%	87.5%	91.1%
ベビーシッター等と一緒に	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
家で子供だけで過ごす	3.1%	4.7%	1.4%	0.6%
家で一人で過ごす	2.8%	3.3%	0.8%	0.8%
友達の家にいる	6.1%	2.8%	0.0%	0.0%
公園等で友達と遊ぶ	16.4%	10.0%	0.0%	0.0%
児童館等公共施設にいる	3.1%	0.6%	0.0%	0.0%
クラブ活動や地域活動	1.1%	8.1%	1.9%	0.0%
学習塾や習い事	3.1%	13.9%	4.2%	0.3%
その他	2.2%	2.2%	3.1%	5.0%
無回答	1.4%	0.6%	1.1%	1.9%

資料：小学校児童用次世代育成支援に関するニーズ調査

また、登別市が行った「中高生用生活意識調査」における「時間に余裕があったら、何に時間をかけるか」については、「友人と一緒に遊ぶ」69.4%「趣味の活動」54.4%「テレビやビデオ」43.6%の順になっています。



資料：中高生生活意識調査